

【巻頭言】

『京都大学生涯教育フィールド研究』創刊に寄せて

前平 泰志

On the resuming and renewal issues of

“Kyoto University Field Studies of Lifelong Education”

グローバル時代を迎え、あらゆる既存のパラダイムの有効性が問われる時代となりました。教育の世界も例外ではありません。西欧社会起源に端を発した「学校」という教育制度が、本当に人々の生を豊かにしていくためのものとなってきたかどうか、あらためて問われています。

従来の社会教育や成人教育の研究は、このような問題意識を一部共有しながらも、全体として主流のパラダイムを乗り越えるというよりも、補完する役割を担ってきたことも、残念ながら事実でありましょう。また、このよう既存のパラダイムから距離を置き、新たな旗印を掲げて登場した「生涯教育」の研究もまた、十分なパラダイムチェンジのエンジンとして駆動してきたかどうか、真摯に反省する必要があるだろうと思います。

現在、ライフサイクルやライフコースを課題に据えた研究成果が、教育の分野だけでなく、隣接する学問分野からたくさん生み出されつつあります。このような専門分野の広がりや深さに学びつつ、自由な発想から追究・追求していく生涯教育学をより発展させていくことが求められています。

私たちは、開拓途上にあるこの分野を果敢にかつ前向きに切り拓いていく研究者として、また、自らが生涯にわたる自由で創造的な学びの実践者として、さらに、あらゆる人々のそのような学びの可能性を限りなく追求し、援助・支援する担い手として、生涯教育学の理論・実践を発展させていく社会的使命を担っていると思います。

本ジャーナルは、そのような趣旨の下、京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座の教員、院生、OB／OG 諸君を中心に、大学院生の編集委員会が主宰する自由闊達でしなやかで開かれた議論のであるフォーラムとして、再出発するものです。位置づけとしては、

従来、図書館情報学・メディア文化論と共同編集で刊行し、一時休刊していた『京都大学生涯教育学・図書館情報学研究』の後継誌であり、今後は生涯教育単独の刊行となります。単独刊行ということで大きな変化となりますが、私たちの研究・教育の大きな基盤の一つである「フィールド」という言葉をタイトルに使うことで再出発できるのは、生涯教育学のアイデンティティを内外に発信するという意味でも、大きな喜びです。

今後は、日頃の研究・教育の成果を公表・発信する有効な手立てとして、本誌が活用されることを望みます。また講座在籍・出身メンバーと、理論・実践をともに創り上げようとする多様なフィールドの仲間の方々とが本誌を通して共同・協働することによって、生涯教育学の輪をさらに広げ、新たな生涯学習の地平をしっかりと拓いていけるようになることを、切に願っています。